

迷い道が 自分の人生

伊藤 栄二

テレビを観ていると、番組の間に流れるCMがやたらとうるさく感じ、リモコンに手を伸ばして音量を下げる人が多い。妻からは、「音が頭にガンガン響くのだよ。それは高齢になつた証拠だよ。」と言われる。高齢になつたのは事実だが、うるさいCMが多いのも確かだ。さらに、サブリメント関係のCMも目に付き、ターゲットにさされているんだと納得してしまう。

そんなこんなで、最近はその番組を見るよりも、録画した放送を手動でリモコン操作し、CMを早送りで見ることが多くなつた。時間の短縮にもなり、とてもよいことだと思つている（スポンサー企業さん、ごめんなさい）。

ここまでテレビCMのことをワルモノのように書いてしまつたが、実は感銘を受けたものもいくつかあり、そのうちの一つを紹介したい。次のCMは、みなさんも記憶のどこに残っているのではないだろうか。

近道は、遠回り
急ぐほどに
足をとられる

始まりと終わりを
直線で結べない道が
この世にはあります

迷った道が
私の道です

（二階堂酒造 CMLibrary 2008 年
「消えた足跡」篇 より）

酒造メーカーのCMである。郷愁を誘う映像と、味わい深いナレーションが強く心に残っている。人は誰でも、早く良い結果を得たいと急ぎがちだが、たやすく進むことは稀である。急ぐほどに「足をとられる」ことが多い。人にはそれぞれの人生があり、これまで歩んできた道、これから進む道は、なかなか直線にはならない。それは、紆余曲折に満ちた人生の「迷い道」なのである。

歩んできた道は後戻りができず、前へ進む道も、一歩踏み出せばそれはすぐさま「歩んできた道」となり、人生そのものとなる。

どんな道であつたとしても、それが自分の人生なのだと思う。

（秋田県教育協会会報第95号
令和6年9月1日）へ寄稿